

平成24年度 第98回全国図書館大会

島根大会 平成24年10月26日

第2分科会 大学・短大・高専図書館

テーマ:「学習・教育のハブを目指して

ー教育と連携した大学・短大・高専図書館のサービスをデザインするー」

第1会場「学習支援をデザインする」

■事例報告(1)

電子リソースを活用した 学習支援環境の構築

高知工科大学附属情報図書館長 篠森 敬三

共著者

- ▶ 高知工科大学附属情報図書館事務室
 - ▶ 濱田佳奈子事務室長
 - ▶ 五百蔵恵子事務室員

1 はじめに

- ▶ 大学の役割
 - ▶ 教育・研究・社会貢献
- ▶ 大学図書館
 - ▶ これら3つを視野に入れた活動が必要
- ▶ 3つを視野に入れながら教育を考える
 - ▶ 分科会テーマ「学習・教育のハブを目指して」
 - ▶ 「電子リソースを活用した学習支援環境の構築」
 - ▶ 電子リソースをどのように位置づけするか, していけるか
- ▶ 本講演の項目
 - ▶ 電子リソースの導入(経緯)
 - ▶ 電子リソースの学習支援への展開
 - ▶ 今後の展開とまとめ

【事例】高知工科大学の成り立ち

沿革

平成8年 学校法人高知工科大学設立(私学)

平成9年 開学(工学部設置)

平成11年 大学院工学研究科開設

平成20年 マネジメント学部設置

平成21年 公立大学法人高知工科大学設立

システム工学群・環境理工学群

・情報学群設置



学生数

- ▶ 学部【工学系3学群(定員1440名)とマネジメント学部(400名)】:2074名
- ▶ 大学院【工学研究科基盤工学専攻(定員修士150名博士60名)】:288名

教職員数

- ▶ 教員(助教以上):151名 職員:81名

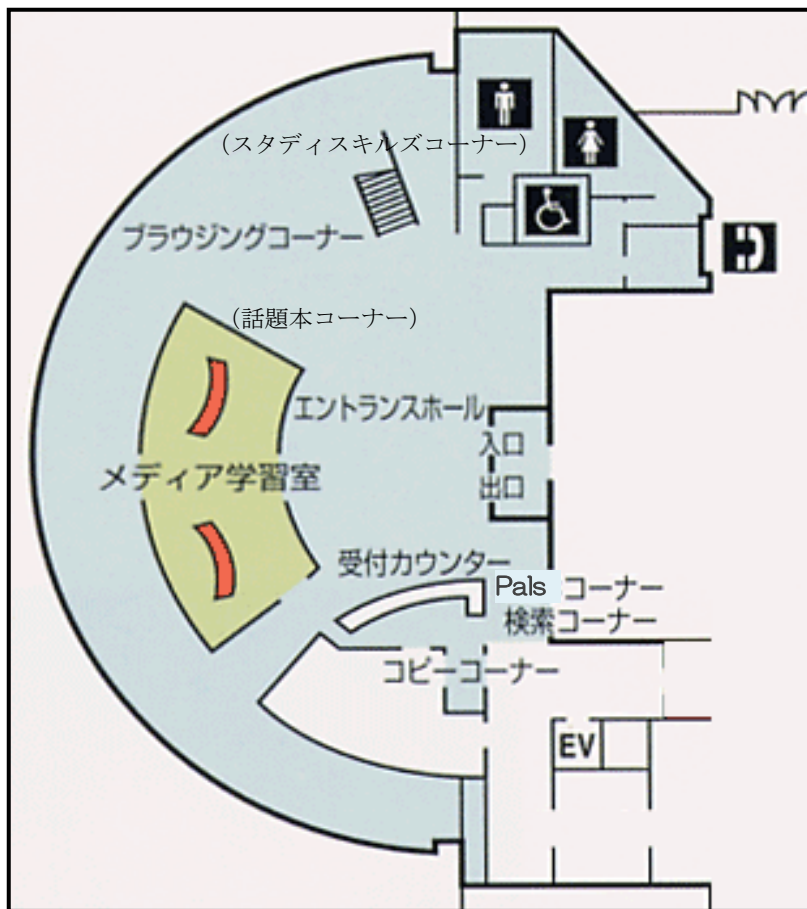
【事例】 高知工科大学附属情報図書館

- ▶ 蔵書数10万4千冊(収容可能蔵書数 17万2千冊)
- ▶ 建物 3階建(延床面積 3,207m²)



【事例】 高知工科大学附属情報図書館

▶ IF



●Pals(自動貸出返却装置)



●ブラウジングコーナー



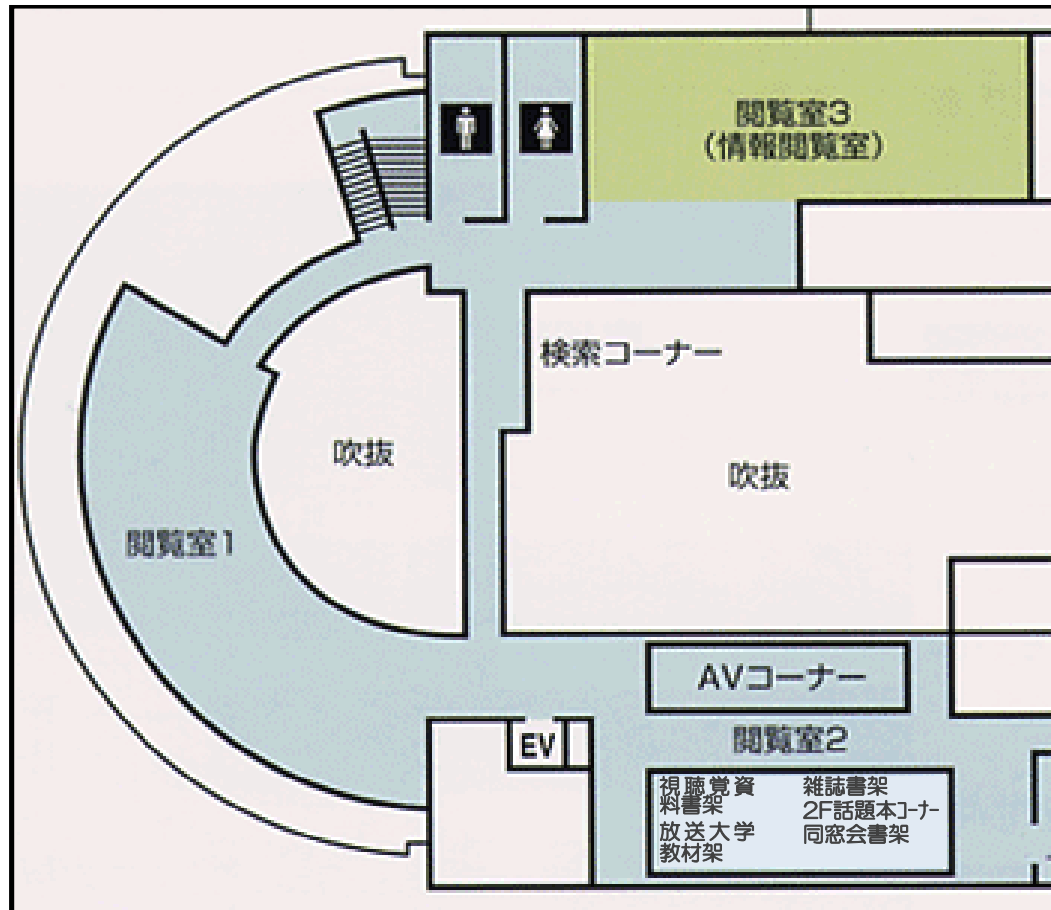
●OPAC端末



●メディア学習室

【事例】高知工科大学附属情報図書館

2F



●閲覧室1



●雑誌書架



●視聴覚資料



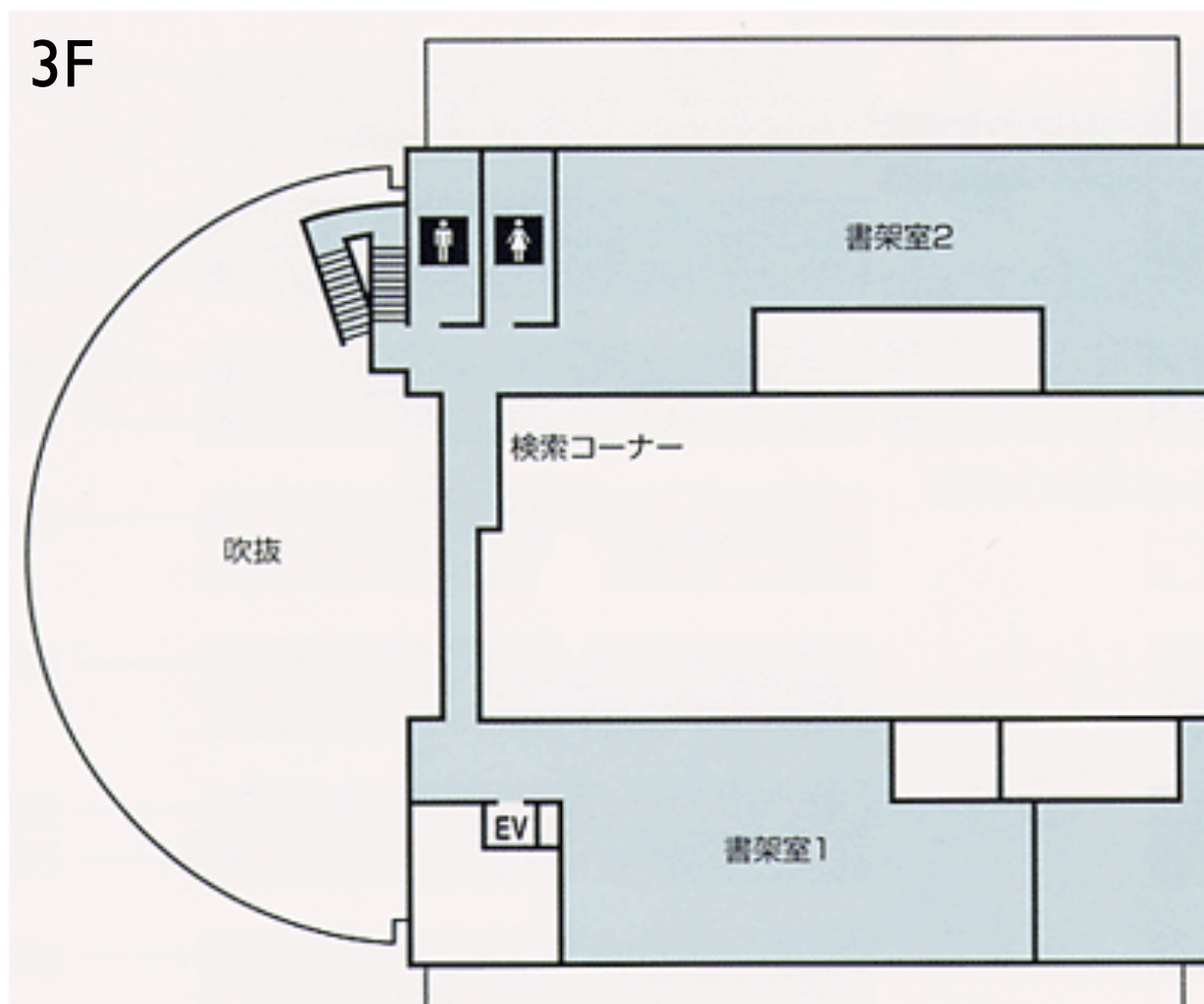
●AVブース



●情報閲覧室

【事例】 高知工科大学附属情報図書館

▶ 3F



●書架室2



●書架室1



2 電子リソースの導入

- ▶ 理想的な電子リソースのあり方
 - ▶ 教育, 研究, 社会貢献が相互に助け合いながら進展
- ▶ 教育上の成果
 - ▶ 獲得された学部学生や大学院生の能力が最先端研究にも活かされる
 - ▶ 地域貢献のためにも用いる
- ▶ 研究や社会貢献の教育効果
 - ▶ 研究や社会貢献への関与が, 直接・間接的な教育に

2 電子リソースの導入（その2）

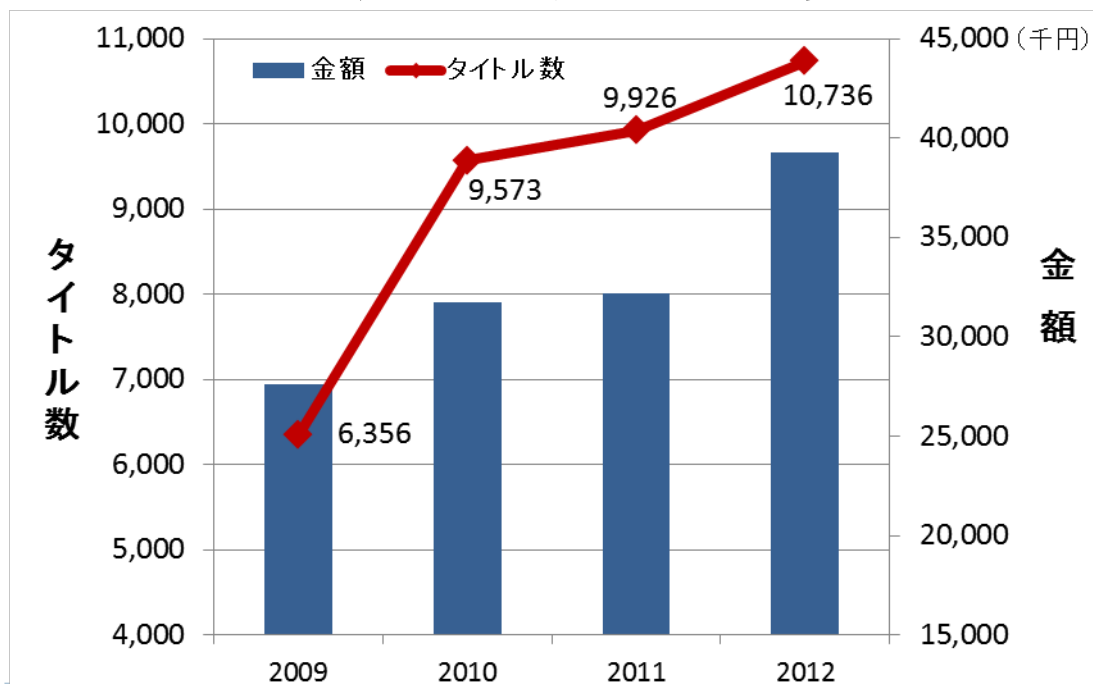
- ▶ 研究ツールとしての電子リソース
 - ▶ 欧米の英語学術雑誌の電子化
 - ▶ 研究支援を最初の目的として整備
 - ▶ 電子ジャーナルの拡大
- ▶ 電子データベースの導入
 - ▶ 電子ジャーナルの活用から
- ▶ 電子ブックの導入
 - ▶ 実質は電子ジャーナル的なもの（例えば学術会議のプロシーディング・ブック等）が先
- ▶ 工科大学の図書館
 - ▶ 理系の教員や大学院生における最先端の研究や研究を通じた教育（学位論文研究など）の支援が主眼

【事例】 電子ジャーナルの状況

▶ 電子ジャーナルの数

- ▶ 2012現在 10,736 タイトル (アグリゲータ5,316を含む)
 - ▶ ほとんどが理学・工学・理工学関係

▶ 電子ジャーナル数と金額の年次変化

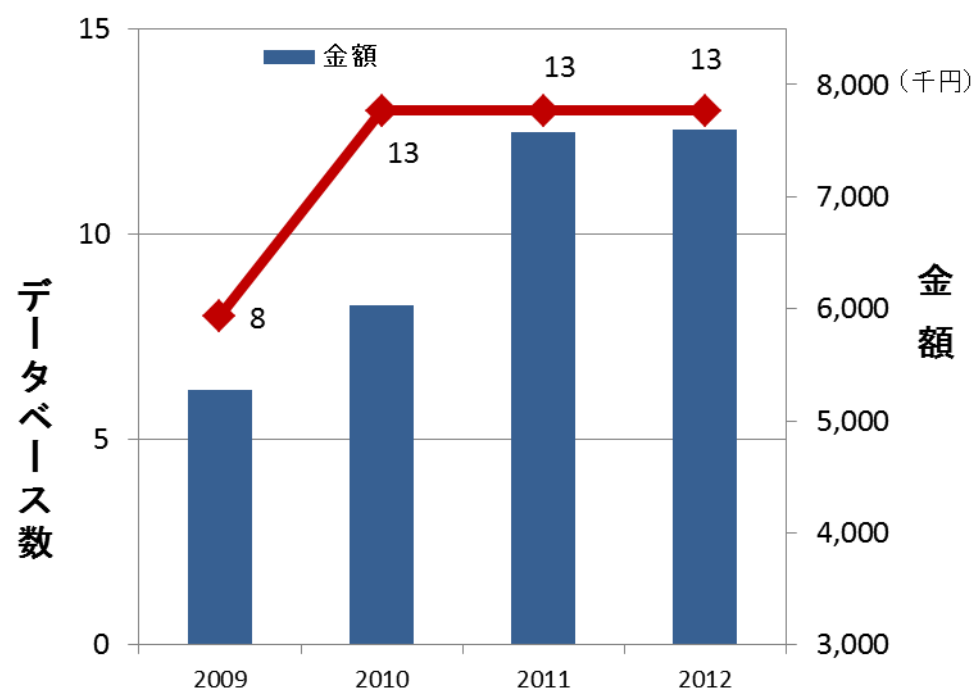


【事例】 電子データベースの状況

▶ 電子データベース

- ▶ Scopus, SciFinder, EBSCO Academic Search Premier, 聞蔵ほか

▶ 電子データベース数と金額の年次変化



3 電子リソースの学習支援への展開

- ▶ 電子リソースを教育の視点から捉え直す
 - ▶ 教育への効果を重視する
 - ▶ 学習支援環境の構築
- ▶ システマティックな対応
 - ▶ 大きなストリームを作る
 - ▶ 昨今、費用対効果も無視できない⇒多くの施策の組合せ
- ▶ 学部学生の利用を推進する
 - ▶ 利用者の低学年化への対応
 - ▶ 教育活動との直接的連携
 - ▶ 学生向けコンテンツの充実

3.1 利用者の低学年化への対応

- ▶ 使い方の説明
 - ▶ マニュアルの紹介からガイダンスへ
- ▶ 図書館ガイダンス
 - ▶ 自動貸出返却装置(Pals)の説明
 - ▶ 全ての一年生対象の授業(『スタディ・スキルズ』)の1コマ
 - ▶ 今後は1単位8回科目へ発展(?)
- ▶ 図書館利用ガイダンスブック
 - ▶ 全員に配布
 - ▶ さまざまな電子データベースやツールを紹介
 - ▶ 今後e-learning形式でも配信

▶ 教材 ごく一般的なもの



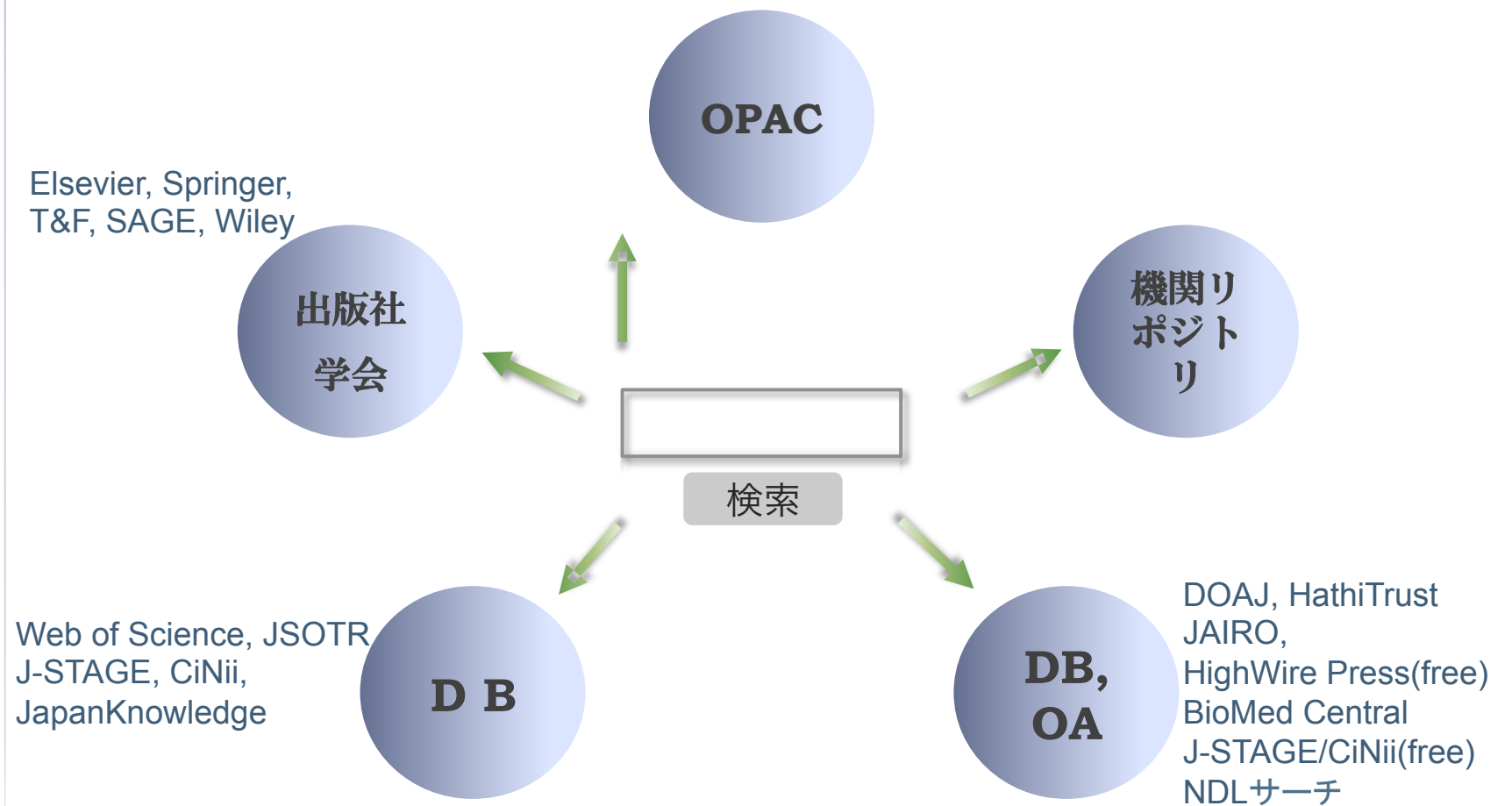
利用者の低学年化 その2

ディスカバリーサービスの導入準備

- ▶ 「図書館HPの学術情報ポータル化」
 - ▶ 検索をより簡便にするために、いままでは別々に検索しなければならなかった電子ジャーナル, データベース, 学位論文, OPAC, 電子ブックを一つの検索窓から取得
 - ▶ 平成25年度に向けたディスカバリーサービス導入へ
- ▶ 学部学生向けの利便性
 - ▶ Google & Wikipedia からより正確な情報へ転換
- ▶ 参考: 研究者対応
 - ▶ リンクリゾルバーと論文検索DBとの相乗効果
 - ▶ 高速かつ簡便に論文情報にたどり着く

【今後の予定】 ディスカバリーサービス

- ▶ 1つの検索窓から学術情報を手に入れる



利用者の低学年化 その3

図書館端末の個人環境実現

- ▶ **図書館端末における個人環境実現（本年度実施）**
 - ▶ 1年生の授業『コンピュータ・リテラシ』と『情報科学』で利用するワークステーション(WS)での利用環境をそのまま図書館情報端末に持ってくる
 - ▶ 新規に端末操作を学習する煩雑さから逃れるとともに、端末操作説明という図書館スタッフの負荷を減らすことにも成功



利用者の低学年化 その4

WiFiネットワークとiPad

- ▶ WiFiネットワーク
 - ▶ 図書館内でのみ使えるWiFiを全学導入の試行的に導入
- ▶ iPadに電子書籍などを登録し貸出
 - ▶ 上記WiFiネットワークを活用
 - ▶ 著作権法などの制度的制約, 有料コンテンツダウンロードなどさまざまな事務処理的制約, さらに簡便に多数台をメンテナンスすることの技術的制約などの多くの障壁
 - ▶ 現在は試験的な運用
 - ▶ 今後の改善(全学規模での学生個人でのiPad導入)に期待



3.2 教育活動との直接的連携

- ▶ 本学図書館の場合, 今後の課題
 - ▶ 直接的な教育活動との連携は, 組織論的に教育センター会議が主導
 - ▶ 講演者が教育センター長を離任したため今は強い連携が行えない
- ▶ シラバスとOPACの連携
 - ▶ 現状では, もはや一般化
 - ▶ シラバスの参考図書・指定図書の利用状況の確認や予約等が行える程度
- ▶ 今後は授業教材の電子的提供のためのサーバーの構築などを検討

3.3 学生向けコンテンツの充実

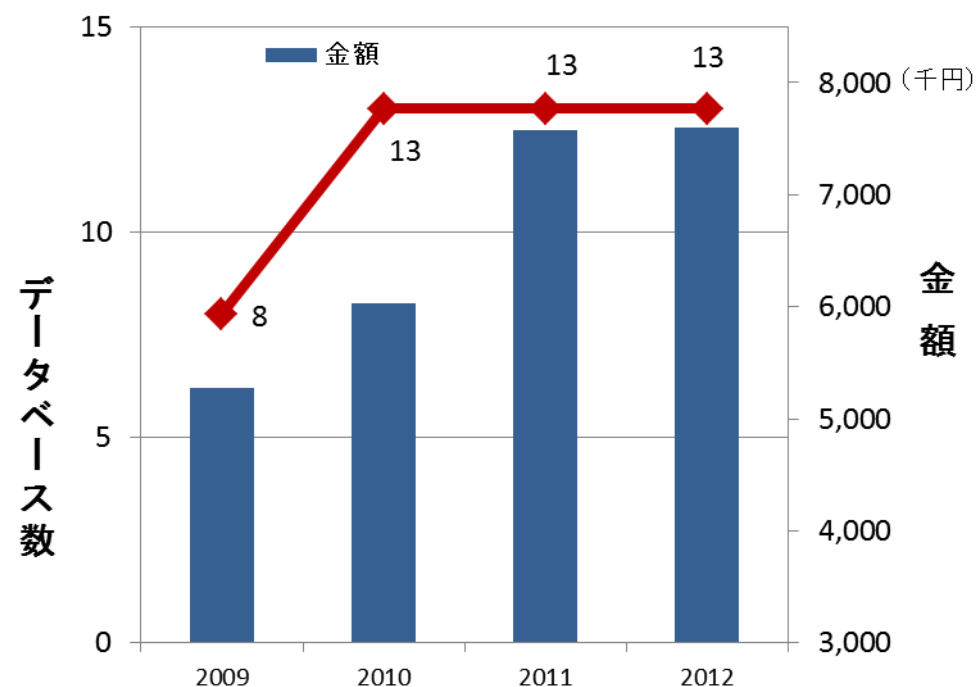
- ▶ レファレンス系データベースの充実
 - ▶ 従来の専門的な英語電子ジャーナル等は、学部学生の教育目的としては難易度が高すぎる懸念
 - ▶ 新聞社系データベースの聞蔵・ヨミダス
 - ▶ 日経BP記事検索サービス
 - ▶ 東洋経済デジタルコンテンツライブラリー
 - ▶ 平成25年より日経テレコン
- ▶ 参考図書資料の電子媒体化の推進
 - ▶ 今後、[JapanKnowledge](#)等とディスカバリーサービスとの連携をおこない、学生がネットワーク上で利用する参考資料の質的向上を企図

再掲【事例】電子データベースの状況

▶ 電子データベース

- ▶ Scopus, SciFinder, EBSCO Academic Search Premier, 聞蔵ほか

▶ 電子データベース数と金額の年次変化



3.4 (番外編) 電子リソース以外の充実 あくまでも情報中心としての図書館

- ▶ 後援会・同窓会による書籍の充実
- ▶ 写真集やライトノベルを含む書籍の充実
 - ▶ 就職関連・業務ノウハウものも人気
 - ▶ 猫写真集など
- ▶ 漫画・アニメ関係
 - ▶ もとはメンタルヘルスケア



▶ 図書館ニュース

- ▶ 天高く、『知』肥ゆる秋('12.10)
- ▶ 図書館の夏休み('12.7)
- ▶ 図書館で進路を考える('12.6)
- ▶ 部活動を応援!('12.5)
- ▶ 図書館へ行こう('12.4)

読書の秋に向けて
蔵書整理終了!

9月3日(月)~14日(金)は蔵書整理のため、休館してまいりました。この間、ふだんの図書館アルバイト学生以外に、蔵書整理員としてSAさんが図書館のために活躍してくれました。

SAのみなさんお疲れ様でした!

目と手と頭、身体全体をつかう仕事で盛りの2週間、多くの人が図書館の仕事はもってこいと思ってくれたに違いないのですが、皆さん、本当に頑張ってくれました。3Qから「ん?なんが疲しやすくなったかな」と思ったら、それはSAの皆さんのおかげです。

本を正しく並べました

本を正しく並べました

お掃除しました

DVDも探しやすいようにしました

総勢45名のSAの皆さんに心から感謝です。

「ぼくの夏休み」

大学は人生の夏休みと呼ばれています。つまり僕は今、人生の夏休みなのかな?というわけですが、暇ではないですが、何もしないことがありません。去年までは、今年、図書館のアルバイトの予定を少し多めに提出したところ、たいぶ多めに入ってもらって大忙しです。特に、蔵書整理中のアルバイトは、ひたすら本を整理する人、パソコンを押し動かす人など皆様の協力のおかげです。ちなみに僕は本を入れるための箱を毎日作り続けました。最終的に職人の称号を手に入れました。これ、どこかで活かせるのでしょうか?

システム工学部 4年 K

●スタッフより
職人として立派なおつとめ、ありがとうございました。「無用の用」という言葉を聞きます。これからはもっとがんばります。図書館スタッフ K

PICK UP!

We love animals!

10月まで「We love animals!」をテーマに本を集めています。

同窓会書庫に写真集が仲間入りしました。その中から動物写真集を17冊展示中。こちらは館内でのみご覧ください。

「ペンギンガイドブック」
地球の上に生息するペンギン全18種がこの一冊にぎゅっと詰まっています。美しいペンギンの写真はもちろん、詳細な解説や棲息地にちりばめられるコラムも盛り込まれています。

「おいで、一緒にいこう」
立ち入り禁止の京成20キロ圏内でもペットの飼育施設を設けている女性への同行取材をもとに書かれています。

「ずっと犬が飼いたかった」
成毛孝子 著
学生時代に犬の飼育の保護犬との暮らしを中心に描かれたエッセイ。考えさせられる思いや涙のあふれる文章が読後感よく、犬の飼育者にはもちろん、犬の飼育者にはもちろんの一品。

「マイライブラリ」にログインし、必要事項を入力してください。依頼があった資料は図書館で検討し、購入可能と判断された場合、資料が貸出手続きできるようになったら依頼者に連絡します。

●何冊まで大丈夫?
1年間に学部図書30冊、その他の図書10冊を上限としています。

●マイライブラリは図書館からどうぞ。
<http://www.sochi-tachae.jp/library/>

3.4（番外編）電子リソース以外の充実 学生活動の中心としての図書館

▶ 企画展

- ▶ 2012年度
 - ▶ 世界の絵本展
- ▶ 2011年度
 - ▶ 「工科大生のための哲学」
 - ▶ 「『三国志』読みまくりフェア」
 - ▶ 「ビジュアルで選ぶ英語学習本フェア」



▶ 文化系サークル展示

- ▶ PHOTO同好会写真展
- ▶ 折り紙作品展
- ▶ よさこい祭り写真展
- ▶ 華道倶楽部展示会
- ▶ 書道サークル展示会
- ▶ 切り絵作品展示会「カッティング・エッジ」



4 今後の展開とまとめ

- ▶ 図書館における学習支援環境の整備に向けて
 - ▶ 具体的なアイデアではなく枠組みを語ります
- ▶ 研究上の要請
 - ▶ 電子リソースに対する教員や各研究室からの研究上の要請
 - ▶ 競争的資金による研究と間接経費
 - ▶ 隠れた教育利用への障壁
 - ▶ 電子ジャーナルのHP上での論文単体販売の価格が高い
 - ▶ 大学院生を中心として論文を多く読ませたいが費用発生には耐えがたい
- ▶ 電子ジャーナル等予算の研究分野間での争奪戦
 - ▶ 学部学生向け活動の縮小をもたらす懸念

4 今後の展開とまとめ その2

人員と予算の確保

- ▶ 図書館における学習支援環境の整備
 - ▶ 教育支援のために一定の予算を確保する必要
 - ▶ 懸念(副作用)
 - ▶ 成果主義にはまる可能性
 - ▶ 図書館に「外部資金による研究活動と同様の緊張」をもたらす？
- ▶ 長期的な視野に立った理念の必要性
 - ▶ 毎年の様に費用対効果を強く求められる
 - ▶ 基礎研究以上に教育は短期的な成果主義であってはならない
 - ▶ 教育を主眼とする活動に対し、重点的に予算と図書館スタッフを配置することが困難に
 - ▶ 研究費の間接経費という立ち位置
 - ▶ 公立大学という立ち位置

4 今後の展開とまとめ その3

偏りのない積極策

- ▶ 周囲の理解を得られるような図書館活動を継続的に
 - ▶ 主たる利用者＝学生や院生／主たる支援者＝学内教職員
 - ▶ 図書館の機能と利便性を高める努力を予算の多寡にかかわらず続けなければならない
 - ▶ 高知県や本学理事長・学長をはじめとする経営側
 - ▶ 教育, 研究, 社会貢献における図書館の重要性のアピール
 - ▶ 教育については
 - ▶ 「教育と連携した図書館サービス」を中心として
 - 本分科会テーマ「学習と教育のハブを目指して」
- ▶ 大学図書館の未来
 - ▶ 努力の余地は残るのか？
 - ▶ 行きすぎた外部委託や合理化
 - ▶ 将来は実は不安